

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：34535

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870763

研究課題名(和文) 保育士・教員養成におけるイメージ・トレーニングを活用したピアノ指導法の基礎的研究

研究課題名(英文) A Study of Piano Teaching Methods Using "Image Training"

研究代表者

戸川 晃子 (TOGAWA, Akiko)

神戸常盤大学・教育学部こども教育学科・講師

研究者番号：00610081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、保育士・教員養成校におけるピアノ学習者に対する効率的かつ効果的なピアノ教授法のための基礎的研究である。彼らはピアノを持っていない場合が多い。そこで、ピアノがない環境下においても演奏向上があることを確かめ、それが「ピアノを練習した場合」と比較して、どの程度の効果があることを調べた。また、「ピアノを弾かないで練習」した場合の効果を高める方法として、音符を言語化することを試みた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to improve piano teaching methods at a teacher-training course where most students do not have a piano. Firstly, "Image Training" was shown to improve their piano performance without actual practice of playing the piano. Then, effectiveness of the "image training" for piano-performance improvement was quantitatively compared to that of actual practicing. Finally, I attempted verbalizing each note to improve performance technique.

研究分野：ピアノ

キーワード：ピアノ教授法 イメージ・トレーニング ピアノを用いない練習

1. 研究開始当初の背景

保育士・教員養成校では、資格取得のための必修科目「音楽」において、ピアノ演奏技術の習得を目指している。その背景には、子どもが、歌を歌うこと、簡単な楽器を使って表現すること、リズムに合わせて体を動かすこと等の音楽活動を通して創造性を豊かにすることや豊かな情操を養うということが挙げられる。そして、保育士・教員には、子どもたちに豊かな音楽環境を与えることが求められている現状がある。また、子ども教育において、生の音楽に触れる体験の必要性も求められている。このことは、将来子どもの保育、教育に携わる養成校の学生が「よりよい音楽」を提供する技術を身につける必要があることを示唆していると考えられる。

しかし、養成校の入学者の多くが、ピアノを弾いたことがなく、ピアノを自宅で練習できる環境にない。そのような環境にも関わらず、短期間でピアノ演奏技術の習得を求められている。そして、卒業後には、子どもたちが保育者、教員と一緒に音楽を楽しめる幅広いレパートリーがすでに身につけていることも必要であろう。加えて、新しい曲を自身で読譜し、弾きこなす力が必要である。このような背景から、養成校では、効率的かつ効果的にピアノ演奏技術を習得させるピアノ教授法が求められていると言えよう。

本研究者は、ピアノ演奏家として、ピアノの練習に「イメージ・トレーニング」を取り入れている。演奏の本番前だけに留まらず、新しい曲に取り組む際は、ピアノを弾く前に、まず机上で楽譜を読み「譜読み」を行っている。このピアノ練習過程における「イメージ・トレーニング」に着目し、保育士・教員養成校におけるピアノ学習者に効果があるかを定量的に調べ、その効果を高めるための要素を抽出し、その要素を強化する教授法を試みた。

2. 研究の目的

本研究は、上記の状況を踏まえ、ピアノがない環境下におけるピアノ演奏技術習得の方法として「イメージ・トレーニング」に着目し、「イメージ・トレーニング」の効果がどの程度であるかを調べ、その有効性を高めるための要素を抽出し、その要素を習得させるピアノ教授法に展開させることを目的とする。本研究における「イメージ・トレーニング」とは、ピアノを弾かず、頭の中で鍵盤、指の動き、音を思い浮かべる「ピアノを用いない」練習とした。

3. 研究の方法

本研究は、2012年に行った実験資料を活

用し、結果の分析、アンケート、実践的実験を行った。

(1) 保育士・教員養成校におけるピアノ学習者の背景に関するアンケート調査を行った。

(2) 「ピアノを弾いて」練習した場合と「ピアノを用いないで」練習した場合の演奏向上を調べた。実験では、被験者は課題曲を初見演奏し、その後「ピアノを弾いて」練習、またはピアノを弾かず、頭の中で鍵盤、指の動き、音を思い浮かべる「ピアノを用いない」練習を行い、再び演奏する。初見演奏時と比較してそれぞれの練習後、どの程度演奏向上したかを客観的評価及び主観的評価に基づき定量的に分析した。

(3) ピアノ初学者がリズムを改善することや習得することに難しさを感じていることに注目し、音符ひとつひとつに言葉をつける「音符の言語化」を試みた。

(4) 研究の発展として、「ピアノを用いない」練習に「動画を視聴する」を加え、実践的実験を行った。学習支援システム(LMS)に本研究者の模範演奏を投稿し、ピアノ学習者がどのように、何を参考に視聴したか等について、LMS上でアンケート調査を行った。

4. 研究成果

(1) 保育士・教員養成校のピアノ学習者252名を対象に行ったアンケート調査では、入学前までにピアノを習ったことがない学生は約40%という結果を得た。また、毎日ピアノの練習をしている学生は全体の約5%にとどまり、週2日が約25%であった(戸川晃子「豊かな演奏表現に向けた実践的試み—リズムに着目して—」神戸常盤大学緑葉,第9号,P2-7,2014を参照のこと)。

(2) 当初の計画に従い、2012年に実施した実験資料の分析を行った。その結果、初見演奏から「ピアノを用いない」練習をした後の演奏向上と、初見演奏から「ピアノを弾いて」練習した後の演奏向上を比較した場合、「ピアノを用いない」練習は「ピアノを弾いて」練習した場合の約60%の演奏向上が見られた。つまり、保育士・教員養成校のピアノ学習者における「ピアノを用いない」練習が有効である可能性が出てきた(戸川晃子「ピアノを用いない練習」による演奏表現向上に関する研究、神戸常盤大学紀要,第8号,P35-43,2015を参照のこと)。さらにその有効性を調べるため、実験デザインを精査し、実験を実施することができた。結果については、今後より詳細に分析し、発表したいと考えている。

(3) 実験資料の分析により、ピアノ初学者自身が、読譜からリズムを把握することや「ピアノを用いない」練習において、リズムを改善することができれば、練習効果の向上が期待できるのではないかと考えられた。そこで、例えば、あるリズム形態を見れば、それに合う言語が浮かび、正しいリズムを自身で認識できるという、音符ひとつひとつに言葉をつける「音符の言語化」を試みた。この試みでは、言葉を発音することで、弾くべき正しいリズムをいつでもどこでも再現することが可能である。すなわち、ピアノ学習者が一人で練習する過程で、繰り返し正しいリズムを復習できるだけでなく、すぐに習得できる可能性が出てきた(戸川晃子 ピアノ教授法における音符を言葉にする試み 演奏技術向上への一可能性 - , 神戸常盤大学紀要, 第9号, P43-50, 2016 を参照のこと)。

(4) 「ピアノを用いない練習」として、学習支援システム(LMS)に本研究者による模範演奏の動画を投稿し、学生がどの程度アクセスし、模範演奏の何を参考しているかのアンケート調査をLMS上で行った。その結果、指使いやリズム、すなわち打鍵のタイミングを参考に行っていることがわかった。また、電車の中や「ピアノを用いない」場所で視聴していることもわかった。(戸川晃子 ピアノ教授法における教育支援システム(LMS)活用の試み, 神戸常盤大学紀要, 第10号, P107-113, 2017 参照のこと)。

これらの成果については、学会発表および論文等で発表を行った。また、授業内における指導での活用に加え、レクチャーコンサート等において、ピアノ曲の効率的かつ効果的な練習方法や指導法として広く発信した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

戸川晃子 ピアノ教授法における教育支援システム(LMS)活用の試み, 神戸常盤大学紀要, 査読あり, 第10号, P107-113, 2017

戸川晃子 ピアノ教授法における音符を言葉にする試み 演奏技術向上への一可能性 - , 神戸常盤大学紀要, 査読あり, 第9号, P43-50, 2016

戸川晃子 「ピアノを用いない練習」による演奏表現向上に関する研究, 神戸常盤大学紀要, 査読あり, 第8号, P35-43, 2015

戸川晃子 教員養成校における<音楽>授業の試み, 神戸常盤大学緑葉, 査読無し, 10号, P7-11, 2015

戸川晃子 豊かな演奏表現に向けた実践的試み リズムに着目して - , 神戸常盤大学緑葉, 査読無し, 第9号, P2-7, 2014

[学会発表](計8件)

戸川晃子 ピアノ演奏表現向上のための教授法に関する研究, 第5回神戸常盤大学学術フォーラム, 神戸常盤大学(兵庫県・神戸市), 2016年10月15日

戸川晃子 ピアノ学習者におけるトレーニング成果の比較, 全国大学音楽教育学会第32回全国大会, 鹿児島女子短期大学(鹿児島県・鹿児島市), 2016年8月27日

戸川晃子 「音符の言語化」によるピアノ演奏技術改善への可能性, 全国大学音楽教育学会中部地区学会後期研究会, 京都文教短期大学(京都府・宇治市) 2016年3月13日

戸川晃子 音楽指導における「音符の言語化」の可能性について, 全国大学音楽教育学会関西地区学会後期研究会, ヤマハミュージックリテイリング神戸店(兵庫県・神戸市) 2016年1月10日

戸川晃子 効率的なピアノ指導法にむけて - 保育士、幼稚園・小学校教員養成校における<表現>の実践とその効果, 全国保育士養成協議会第54回, 口イトン札幌(北海道・札幌市), 2015年9月23日

戸川晃子 ピアノ学習者の背景に関する一考察, 全国大学音楽教育学会第31回全国大会, 山口県国際総合センター海峽メッセ下関(山口県・下関市), 2015年8月28日

戸川晃子 効率的なピアノ指導法にむけて - 保育者養成校における学生の初見試奏調査結果より , 全国保育士養成協議会第53回研究発表論文, ホテルニューオータニ博多(福岡県・博多市), 2014年9月19日

戸川晃子 イメージ・トレーニングがピアノ初学者に及ぼす効果についての研究 , 第3回神戸常盤学術フォーラム, 神戸常盤大学(兵庫県・神戸市), 2014年9月20日

〔その他〕

戸川晃子 大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」ピアノレクチャーコンサート, コミスタこうべ（兵庫県・神戸市）, 2016年1月8日

戸川晃子 大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」ピアノレクチャーコンサート, コミスタこうべ（兵庫県・神戸市）, 2016年1月8日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸川 晃子 (TOGAWA, Akiko)
神戸常盤大学・教育学部・講師
研究者番号：00610081